

和光市国際化推進懇話会第5回会議

会議要録

- 日 時 平成23年9月28日（水）午後1時30分から3時30分
- 会 場 和光市役所5階 503会議室
- 出席者 田中明会長、高富暁子副会長、伊藤弘嗣、藤澤さとみ、竹腰満、田中茂穂、溝部絢子（敬称略）
- 傍聴者 なし
- 事務局 人権文化課長 河野、人権文化課主幹 寄口、文化国際担当統括主査 渡辺、同担当主事補 市川

1 あいさつ 企画部長 田中 義久

- ・委員変更報告 独立行政法人理化学研究所選出委員

2 議題

(1) 平成23年度和光市国際化推進懇話会スケジュールについて

事務局：資料1「平成23年度和光市国際化推進懇話会スケジュール」について説明。

田中会長：事務局から説明があったが、質問や意見はあるか。

各委員：発言なし

事務局：補足として、会議要録については、今後も引き続き要点筆記で委員名表記をしたものでよいか。

各委員：了承

(2) 第二次和光市国際化推進計画の施策について

事務局：資料2「和光市国際化推進懇話会議題について」を使用し説明。

田中会長：議題自体について、質問や意見はあるか。

事務局：・避難所用多言語シートを災害時に有効に機能させるには、・災害時通訳・翻訳ボランティアの運用方法について、・緊急時における外国籍市民の意見・要望の把握、・災害時の情報発信、4つの項目について項目毎に第6回会議、第7回会議と時間を区切って意見していただき、最終的にまとめていきたいと考えている。

竹腰委員：議題に入る前に、第4回までの懇話会会議で、ファクトファインディングが必要と意見したが、そのことについてはどうなっているのか教えてほしい。また第5回会議以降、第二次国際化推進計画の施策についてワーキンググループを作って行っていくことを検討するとなっていたが、どうなったのか教えてほしい。

事務局：まず、ファクトファインディングについては、外国籍市民への要望を調査することは

重要であると考えている。例えば今回の議題の災害時対応についても、国際ネットワークに協力をいただき、可能な範囲内でアンケートや聞き取り調査を行っていききたい。また、県や近隣の市で実施された調査の結果を有効に活用することも考えている。

竹腰委員：今回の会議の中で、逐一計画していくのか。

事務局：ご意見をいただきながらどの方法が有効であるか考えていききたい。また、今年の4月から9月に行われた県の多文化共生キーパーソンによる多文化共生社会づくりのための外国人住民実態調査も利用していききたい。2点目のワーキンググループについては、各施策をワーキンググループで議論することも考えたが、今回3月11日の大震災があり、現在の状況を考えこのテーマを今回挙げさせていただいた。ワーキンググループについては今後の課題とし考えていききたいのでご協力をお願いしたい。

竹腰委員：色々な問題があるのは分かるが、待っているだけではなく新たに姉妹都市を結んで事業を行ったり、県のように企業を誘致したりすることもできると思う。まずは各企業から情報を集めていったらどうか。市の財政に貢献できるのではないかな。

事務局：企業を誘致して財政を上げるなどは難しい話で今まで行っていなかったが、そういった方法も今後考えていかなければならないと思う。

田中会長：今回の会議では、災害時における外国人対応という絞ったテーマで行わせていただきたい。今後第6回、第7回とあるので、全体を通した意見を出して進めていくことも考えていければいい。

田中委員：半年も会議が空いていたので、前回の会議で決まったことはどうなったのかと思われるかもしれない。確かにこのテーマは重要なことであるが、会議の初めにこのテーマに絞っておくなど一言言っておけばよかった。

溝部委員：提示されたスケジュール通り終わらせようとする来年の3月で任期が終わるので消化不良になってしまう。これだけの災害があったのだから、それを踏まえて災害時対応施策に盛り込んで、よりよい国際化推進計画案を作成すべきである。たとえば半年遅らせる等のスケジュールは変更できないのか。

事務局：半年会議が空いてしまったことは大変申し訳なく思っている。会議は今年度、3回であるが、3月下旬の任期終了までに必要に応じて会議数を増やすことも可能である。

田中会長：今回はこのテーマに沿って議論を進めていききたいと考えている。国際推進懇話会はこうしていくのだということではなく、よりよい方法を市に提言することが役割だと思っている。ご協力をお願いしたい。では、まず「避難用多言語シートを災害時に有効に機能させるためには」について協議したい。

事務局：資料3～資料7を使い、「避難所多言語シートを災害時に有効に機能させるためには」について説明。

田中会長：事務局から説明があったが、質問や意見のある方はいるか。

田中委員：今あるものはそのまま使用したらいいと思うが、和光市のどこに外国籍の人が多く

住んでいるのか調査しておいた方がいいと思う。国や企業によつての基準を把握することも必要かと思う。普段から災害の意識がなければこういったものは意味がない。普段からの心がけがどこまで徹底できるか、また災害の意識を持ってもらうことが重要である。

竹腰委員：このテーマは、東日本大震災レベルの大震災を想定したものか。

田中会長：いつ起きてもおかしくない大震災に対してである。

竹腰委員：どのような支援をしていくかというのが議論のテーマなのか。これだけの資料で考えていくのか。それともこの資料を踏まえてということか。

田中会長：これらの資料を有効に機能させるには、別の考えも必要だということを我々の意見として上げていくことが必要だと思う。

竹腰委員：ホームページでは大震災での成功事例等が記載してある団体がある。そういうのをファクトファイディングしたらどうか。また、東日本大震災のレベルになると市だけではなく、近隣の市との関係も重要である。

田中会長：これらの資料をどのように活用していくかなどは行政の責任であり、それらを知ることは市民の務めである。情報発信についてもつながっていくが、情報発信については今回の議題であり、今回の議題は全てつながっている。

竹腰委員：東日本大震災のような震災が起きた場合は、情報のとりまとめとしては人権文化課が対応するのか。それともボランティアが行うのか。

事務局：災害マニュアルに基づいて人権文化課が行う。

竹腰委員：何名くらい対応できるのか。

事務局：課の職員は6名なので、6名で対応する。あとは災害時通訳・翻訳ボランティアに協力を得る。

竹腰委員：そういうボランティアに対して、マニュアル等の認知、コミュニケーションを図ることは必要だと思う。

事務局：ボランティアの研修や防災訓練等は考えている。

竹腰委員：留学生がコミュニケーションは強いのではないかと思う。

伊藤委員：外国人の方に費用がかからずマニュアル等を渡すには、自治会や民生委員を使用するのがいいと思う。

藤澤委員：外国籍の方々は facebook などを使っていることも多いので、情報交換ではホームページに情報を掲載するより facebook や Twitter など SNS を使った発信方法をした方が早く情報が伝わるのではないか。

避難所会話セットを確認したが、何が書いてあるかが分かりづらいので、必要な情報を見つけやすいよう整理してもらうことで分かりやすくなると思う。また、いざというとき助け合えるよう、外国人同士連絡を取れるようなイベントを市民まつり以外で開催してほしい。

伊藤委員：学校でもやっているような、メールアドレスを登録してもらって、何かあった場合に災害情報というようなメールを送信するのもいいと思う。

溝部委員：災害時にアクセスできるようなホームページ上のページはあるのか。また、質問したらすぐに返事が返ってくるような双方向の対応ができるページはあるのか。

事務局：現在市のホームページ上にそのようなページはない。東日本大震災の時には、多言語情報提供のページは作成し、情報提供を行った。

溝部委員：あの日、外国籍の市民が、どこに避難すればいいかわからなくて、市役所に行ったが指示がなかったといった声を聞いた。また放射線の問題などについてもどこに問い合わせればいいのか分からない。災害時通訳・翻訳ボランティアについても例えば英語だと TOEIC 何点以上とか資格があつて、日常会話程度ではハードルが高くて協力できないということも聞いた。

事務局：当時は、大震災に関する情報をまとめたページへの入り口を大きく作っていた。また、災害時通訳・翻訳ボランティアについては点数の制約は設けていない。今後ともボランティアに協力していただけるよう周知していきたい。

田中会長：時間もあまりないので、「避難用多言語シートを災害時に有効に機能させるために」の審議はこれまでとする。全ての項目がつながっていることもあり、残りの3つの項目についてはまとめて事務局に説明してもらい、その後協議することとする。

事務局：「災害時通訳・翻訳ボランティアの運用方法について」「緊急時における外国籍市民の意見・要望の把握」「災害時の情報発信」について説明。

高富副会長：災害時通訳・翻訳ボランティアに登録しているが、災害時は特に連絡がなかった。緊急時に使用するシート、それ以降に使用するシートなど、災害時の対応、それ以降の対応という形で対応方法を考えるといいと思う。またメールでの連絡網があるといい。好きなときに連絡を返すことができる。海外と連絡を取るときに、Skype、MSN がよく使われる。そのようなツールが活用できるといいと思う。

田中委員：災害時にどこにボランティアを配置するかなど対応の優先順位を考えておかないといけない。

竹腰委員：命を守る、生活を守るなどによってボランティアのあり方は違ってくると思う。災害時通訳・翻訳ボランティアに登録しているのは全て和光市民で日本人なのか。

事務局：和光市外の方や、外国籍の方も登録してくれている。

高富副会長：情報が少ないと思う。ボランティアと市とのコミュニケーションがない。また、月1回外国人がどこかに集まれるイベントがあるといいと思う。

田中会長：ボランティアに登録した人たちが災害時に手を組んでいけるように、ボランティア同士の交流を図ることが必要である。例えば国際ネットワークの中に入れてもらうなど、交流の方法を考えるべきではないか。自治会では、外国人が加入していないことが懸念される。

藤澤委員：和光国際高校の生徒は色々な言語の人々と交流したい気持ちがとても強いので、高校生でもそのような方々と集まって交流をもてる機会を設けてほしい。通訳ボランティアなどについても、普段から通訳・翻訳ボランティアの方々と話したり研修したりする機会があれば、災害時などへの備えになる。もしなにか災害などあった場合、どこにいてもお互い助け合いができるような交流にしたいと思う。

伊藤委員：民生委員はいろいろ把握しているので活用すべきだと思う。

事務局：欠席した近長委員の意見を配布。

溝部委員：今回の大震災で外国人窓口は設置したのか。またその後は聞き取り調査を行ったのか。

事務局：今回の大震災では設置していない。

溝部委員：近長委員の意見の中の質問について、できる範囲での回答を事務局にお願いしたい。

事務局：事務局が今後施策を進めていく中での意見をいただく場が懇話会だと考えている。それぞれの意見について結果を報告する形ではなく、意見をいただき、行えることは今後検討していきたいと考えている。

田中会長：それでは3つの議題についての審議はこれまでとする。議題(2)については以上とする。

(3)その他

事務局：次回会議については10月31日（月）を予定しているが問題ないか。

田中会長：事務局から次回会議の日程について、10月31日（月）と説明があったがこの日程でよいか。

各委員：了承

田中会長：その他、全体を通してなにかあるか。

各委員：特になし。

田中会長：ではこれもちまして、議長の職を解かせていただく。

事務局：以上をもちまして和光市国際化推進懇話会第5回会議を終了します。長時間にわたり慎重なご審議をいただき、ありがとうございました。